

学園ニュース

富山大学

No. 9

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

昭和47年7月3日



中央図書館完成予想図

||||||| 図書館など最近の学園整備 |||||

昨今、五福学園のメイン・ストリートは掘り返され通行も妨げられ、近くの学部ではひっきりなしの騒音に悩まされ続けてきた。何とか夏期休業中の仕事にして貰えないものか、といった苦情も出ていたようだ。しかしやがて、ここに掲げたような——色彩がないので実感には遠いが——一応、美しい図書館が完成すれば、今の各学部似たり寄ったりの箱形四階建の立ち並ぶ殺風景な学園に少しはやわらぎも与えてくれることだろう。いや、外観ばかりではなく、内部構造にも、いろいろと工夫がこらされている。利用者の便を計って建物は二階建（書庫は三階、図書増冊につれ四階に変更も可能）とし、らせん階段、冷暖房装置など読書

意欲の向上を期してすべて近代的に設備されるはずという。完成は本年12月20日を予定、いづれ大学本来の研究、学習図書館として充分機能を発揮してくれることだろう。

なお、図書館建築のため、永らく体育会にも不便をしのんでもらっていたが、新敷地内のグラウンドもどうやら第一段階の整備を終え、もう一部が使用されは始めている。今後も本学では種々の施設、建築物が要求、実現されていくことだろうが、さしあたり、さきに図書館といっしょに報告された食堂建築要求については、何とか本年内に、その着工を期し得ないものかと、本省との交渉が続けられている。

– 2 –

学部だより

教 養 部

5月10日(水)の学生大会でストライキが解除され、翌日から授業が開始された。

今年度の授業計画は下記の通り。

47年度前学期(1年次・2年次)

授業：47. 5.11.(木)～ 7. 5.(水)[8週]

9. 1.(金)～ 10.19.(木)[7週]

補講： 10.20.(金)～ 10.21.(土)[2日]

試験： 10.23.(月)～ 11. 6.(月)[12日]

(注) 46年度後学期分授業および試験(旧1年次)

7. 6.(木)～ 7.25.(火)

47年度後学期(1年次)

授業： 11.10.(金)～ 12.25.(月)[6週+3日]

48. 1. 9.(火)～ 3. 8.(木)[8週+3日]

試験： 3. 9.(金)～ 3.15.(木)[1週]

学部だより

アルバイトあっせん状況

●家庭教師

(S 46.4～47.3)

学部等 対象	教 養 部			文理学部			教育学部			経済学部			薬 学 部			工 学 部			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
小学校	13	8	21		1	1	2	7	9	3	—	3	—	—	—	1	—	1	19	16	35
中学校	28	16	44	4	6	10	—	2	2	8	—	8	—	—	—	2	—	2	42	24	66
高 校	9	4	13	1	2	3	—	—	—	3	—	3	—	—	—	—	—	—	13	6	19
計	50	28	78	5	9	14	2	9	11	14	—	14	—	—	—	3	—	3	74	46	120

賃金(月平均) 小学校 4,000円～5,000円、中学校 5,000円～6,000円、高校 6,000円～7,000円

●一般業務

(S 46.4～47.3)

件数等	職 種	事 務	調 査	軽 労 働	店 員	配 達・運 搬	監視等補助	雑 役	計
件 数		14	26	50	21	23	11	61	206
人 数		28	278	225	51	53	48	273	958

賃金(1件当り) 最高 男子 3,500円、女子 2,000円 最低 男子 950円、女子 800円
平均 男子 1,500円、女子 1,200円

ミュンヘンの思い出

教養部助教授（ドイツ語）

上 村 直 己

自分は一昨年10月から約1年ミュンヘンを中心にした外国生活を経験した。それは一口にいて極めて変化に富んだものであった。

160マルク出して借りた下宿は市の中心部で便利であり大学や駅までは歩いてゆけた。それに下宿のおばさんは若くはなかったが親切だった。大学までの道筋はまず朝市のたつヴィクトリア広場を通る。ドイツ語では梨と電球はどちらも「ビルネ」であるがなる程電球の形をした梨が売られていた。古ぼけたペータース寺院のそばを抜けるとマリエンブラッシにさしかかる。ここにはゴシック風のみごとな市庁舎がそびえており、観光客がいっぱいだ。日本人の姿を見かけるのも大抵このあたりで、時には写真をとってあげた。この市庁舎の1階にはカイザーという本屋があり立読みが出きた。一体にドイツでは立読みはしにくい。すぐ店員が来て「何の本をお探しですか」と聞く。がこのカイザーだけはそれがなかった。自分は適当に立読みを切り上げて右へ出る。するとオデオン広場へ出る。昔ヒトラーやドゴールが獅子吼をした所だが、それにふさわしく2頭の獅子の像が控えている。左には市のシンボルのフラウエンキルへの円い塔が見おろす。

ここから大学へは戦勝門^{シーゲストル}を目標にまっすぐ北に向えばよい。立派なバイエルン国立図書館を過ぎれば左に大学の名物の噴水が目に入る。ミュンヘン大学は西独最大のマンモス大学である。建物は実に堂々として富大の比ではない。これでは封鎖など簡単に出来まいと思った。講義中の当生の態度は概してよい。だが禁煙の貼紙があってもタバコを吸っているのは時々見かけた。講義はいいとして討論が中心のゼミは一筋縄ではゆかない。ドイツ語教師たる自分もこれに苦しんだことを告白したい。

メンザの混雑には辟易し、学外のレストランで食事した。これには手頃な「ウィーンの森」と称する全国ネットのレストランがあり、チロル風の可愛いウェイトレスに給仕され、音楽のなま演奏が聞ける。チキ

ンの丸焼が名物だった。

ミュンヘンはドイツ屈指の芸術文化都市だけに退屈しない。自分もドイツ人の真似をしてオペラ劇場や芝居小屋に出入りした。古い教会でのバッハのカンカータの演奏には感動した。下宿のすぐ真向いがオペレッタ劇場でよく練習のコーラスが聞えて来たものだ（多分ドイツ程高い水準を保った音楽が盛んな国はないだろう）。昔から詩人や芸術家を引きつけたミュンヘンにはそれに関係ある場所も少なくない。例えば「ハインリヒ・ハイネ1827年より28年までこの家に住めり」といった記念額をふと見かけることがある。イギリス公園やイザール河畔はよく散歩したが鷗外の小説に出て来るババリアの女神像の立っている付近はいつもはいいが、十月祭には不夜城と化し馬鹿騒ぎが始まる。これはビール会社をもうけさせるだけの程度のものらしい。

南ドイツの自然は美しい。加えて素朴で親切な人々。

そんな町の飲食店^{ガストロノミ}でビールを前にして坐っていると「君は日本人だろう、日本はすばらしい」と知りもしないでいうおやじもいた。日本語への関心は低い。これに不満を感じていた自分は、ドナウエッシーゲンの高校に招かれた際、「日本語にもっと関心を持つようお願いする」と訴えたものである。ミュンヘンはナチの本拠地だったとの観念が残っているようだ。イタリア人が「モナコはナチだ」というのを聞いたが、自分はグレイス・ケリーのモナコのことかと思っていたら、イタリア語ではミュンヘンのことをモナコというのであった。グッハウの強制収容所の跡やブラウナウのヒトラーの生家、彼の山荘のあったベルヒテスガーデンを訪ねたことも忘れられない。

帰国直前あまり興味はないがみやげ話と思ってオリンピック塔に登った。上から見おろすと、こんなことで間に合うのだろうかと思ったが計画性に富むドイツ人は旨くやるのだろう。